

記録された戦争の時代

今年、日本は終戦から80年という節目の年を迎えました。アジア・太平洋戦争を体験した人々の数は急速に減少しており、当時の話を直に聴く機会は失われつつあります。殊に、兵士や義勇軍として戦った経験や満蒙開拓団の経験を語れる方はもうほとんどおらず、聴きたくても聴けないような状況となっています。

このような状況になることは戦後50年の頃には大いに危惧され、戦争体験を文字、音声、動画等で記録するという作業が本格化しました。近年は、戦時中の日誌、日記、手記、手紙なども当時の人々の声に限りなく近いものであることから注目が集まり、全国的にそれらの史料の収集が進められています。

伊那市内では、日露戦争の時代からの戦争関係の記録や満蒙開拓団に関する貴重な史料を保管してきた家から続々と博物館に情報が寄せられるようになってきています。また、上伊那教育会が保管してきた満蒙開拓青少年義勇軍に関する貴重な史料の全貌も明らかになってきました。

今回の企画展は、戦争が行われた時期の記録に注目して、人々が何を考え、どう生きたのかを振り返ります。一度戦争が始まってしまうとどうなるのか、また、平和とは何かについて改めて考えるきっかけにさせていただきたいと思います。

〈関連企画〉

① 第37回歴博講座

日時 10月18日(土) 13:30~15:30
会場 伊那市高遠町地域間交流施設(高遠町歴史博物館隣)
講師 伊藤純郎氏(筑波大学名誉教授)
演題 「特攻美談の虚と実」
定員 40人
申込 9月20日(土)から電話かメールで受け付けます。

② ギャラリートーク

日時 9月27日(土)、10月11日(土)、11月1日(土)
各回とも11:00~11:45
会場 高遠町歴史博物館2階第3展示室、1階ロビー
内容 案内人と参加者の対話を通して企画展の展示資料を鑑賞する。
案内人 高遠町歴史博物館長 塚田博之、
同館学芸員 福澤浩之、同館学芸員 三和春香
定員 なし
申込 不要



◀高遠町戦没者葬儀
(高遠町図書館提供)
昭和13年(1928)に高遠町が主催した戦没者の葬儀の様子。高遠尋常高等小学校の校庭で行われました。遺骨が帰ってくることはほとんどありませんでした。



▲軍隊手帳(当館蔵)

伊那里村杉島の伊東知朗が所持していたものです。昭和15年(1940)1月13日に独立混成第五旅団砲兵隊に入隊。中国での戦闘に参加し、無事復員するまでの動きが詳細に記されています。



▲霧町常会『諸事控帳』(個人蔵)

昭和16年(1941)7月1日から昭和25年(1950)10月18日までの霧町常会の動きが記されています。配給、応召兵関係、動員、募金について詳細に知ることができます。



▲「あなたも義勇軍になれます」(上伊那教育会蔵)
国民学校の子もたちに義勇軍を薦めるため、当時人気のあった漫画家を動員して製作したパンフレットです。

伊那市立高遠町歴史博物館



博物館 HP は
こちらから

